

<問い合わせ状況 2022 年 6 月>



院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に 5～10 件程度の問い合わせに対応しています。6 月の疑義照会は 7 件で、内容は以下の通りでした。



- 用法用量確認（4 件）
- その他（3 件）
 - ・規格違いで調剤して良いか
 - ・重複投与
 - ・併用薬確認



薬に関する問い合わせ（患者・家族・施設より）

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。
6 月は質問がありませんでした。

薬に関する問い合わせ（院内より）

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。6 月は記録したもので 9 件でした（病棟で直接質問されたことは未記載の可能性あります）。

◎がついたものについては回答を DI ニュース No. 448 に記載しています。

- ニキビダニが増えている方から真菌が検出された。抗真菌薬は使用可能か？
→使用可
- デュタステリド[®]AV 錠は簡易懸濁可能か？
→可。5 分以内に崩壊。
- ◎ランマーク[®]とリュープリン[®]は同日投与が可能か？
- ◎オーラ[®]で痙攣の副作用があった場合、他の局麻のリスクは？
- 抑肝散はどのくらい投与間隔があれば再投与可能か？
→約 4 時間
- フランドル[®]テープが剥がれた場合、再利用は可能か？
→粘着力が残っていれば可能
- 口唇炎で利用できる薬剤には何があるか？
→デキサメタゾン軟膏、白色ワセリンなど。亜鉛華軟膏やアズノール[®]軟膏、ロコイド[®]クリームを使用した報告も見られた。
- ベサコリン[®]散が 2g/日で指示あり。使用可能なのか？
→通常 0.6～1g/日。1.5g/日で使用した報告は出ている。「適宜増量」とあるため一般的には 2 倍量まで使用可能と思われるが、医師の判断による。
- 鼻の皮膚剥離が生じている。ゲンタマイシン軟膏を使用したいが、顔ダニの温床にならないか？
→大丈夫と思われる。

